

石巻
2025
会議

石巻
2025
会議

～石巻をどんな街にしたいですか？～

2018 → 2025

コンソーシアムハグクミ

01 オープニング

今年度開催する4つのテーマの共有と
「石巻をどんな街にしていきたいか？」を考えるワークショップ

実施日:2018年10月19日(金) 場所:IRORI石巻 参加者:19名

タイムテーブル:石巻2025会議の説明-昨年度の振り返り-今年度のテーマ共有-ハーフタイム-ワークショップ



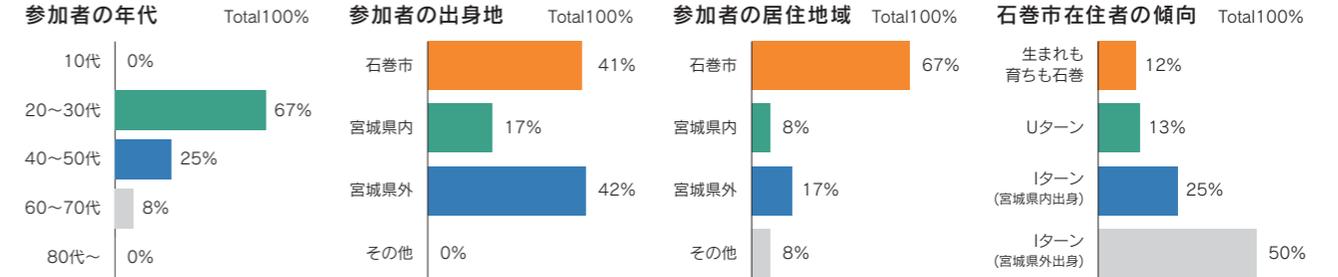
登壇者



松村 豪太
ISHINOMAKI2.0/
ハグクミ



三上 和仁
合同会社
デザインナギ



石巻2025会議とは

石巻2025会議は「2025年」を軸に地域の未来を考える場です。社会保障制度の破綻の始まりが推測される「2025年問題」と集中復興期間から数年が経過した「日常」を意識し「2025年」を選定しています。毎回テーマを設定し、その各分野のキーパーソンが集まり議論を通しながら、地域の未来を共有していきます。定量的な議論より、定性的

な話し合いである点も特徴です。昨年度はローカルベンチャー、地域包括ケア、移住、観光を実施。今年度は地域経済、子育て、文化歴史、コミュニティをテーマに開催します。



ワークショップ

オープニングイベントでは「石巻をどんな街にしていきたいか？」をテーマにワークショップを開催。「石巻の(A)を使って、(B)を実施する。それは(C)です。」という定型文を参加者に投げかけ、全員が発表を行いました。回答の中には「石巻の川辺を使って、週末気軽にアウトドアごはんを楽しめる場所をつくる、それは

街中の空間を発信するメディアです」「石巻の休眠施設を使って、子どもと大人が溜まれる場所をつくる、それは地域の繋がりがうまれる場所です」「商店街の空き物件を利用し、まちなかゲストハウスを作る、そこは飲みすぎてもはって帰れる素敵な場所です」といった具体的な案やユニークなアイデアが次々と生まれました。



参加者の声

- 皆さん前向きで非常に良い。
- 初参加でも心地よく温かく受け入れてくださった。
- 楽しい時間でした。自分も参加できて楽しかった。
- 地域の課題について真剣に向き合っている姿が素晴らしいと思います。
- アイデア出しも、面白いアイデアがでて、良いインプットがありました。
- 様々な分野の方々が参加していて、いろんな視点で石巻を考えることができた。
- 普段、考えたいと思っているけれど具体的に考えつかないところが、会議の提案と参加者の発言によってクリアになった気がします。



02 地域経済

石巻の事業者が集い「地域で稼ぐ」を議論

実施日:2018年11月16日(金) 場所:IRORI石巻 参加者:39名
 タイムテーブル:自己紹介-テーマ説明-ハーフタイム-ワークショップ



登壇者



松村 豪太
ISHINOMAKI2.0/
ハグクミ



阿部 明夫
石巻産業創造
株式会社



平塚 隆一郎
山徳平塚水産
株式会社



山田 廣康
株式会社
ノースジャパンツアーズ



比佐野 皓司
信和物産株式会社



高澤 祐二
七十七銀行



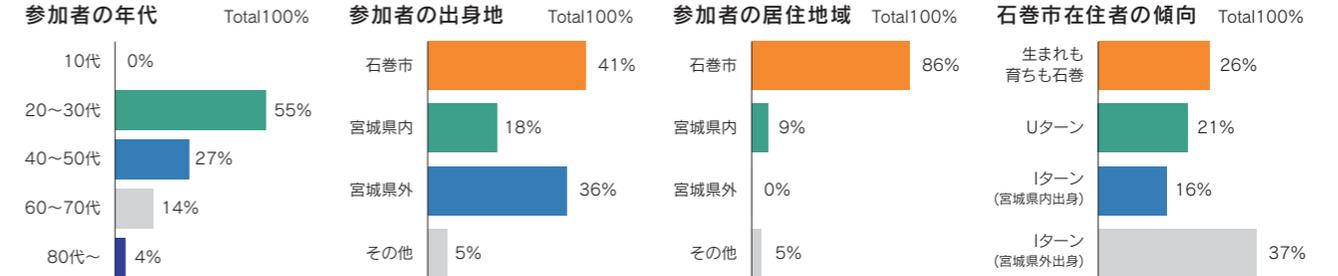
林 伸和
株式会社林食品



佐藤 友美
石巻元氣商店



苅谷 智大
株式会社
街づくりまほう



現状共有

冒頭でファシリテーターの松村豪太さんが「地域経済がイケてる例」を他の自治体の事例を交えながら紹介。石巻も負けない個性がありますが、更にどんどんイケてる地域にするためにはどうすればよいかを話し合いましたと呼びかけます。続いて登壇者の自己紹介では「儲かっていること、苦戦していること」を紹介しながら話

します。石巻で商品を販売することの難しさ、震災で発生した赤字額、大型客船の誘致やリボンアートといった大規模誘客、地元の人がまちなかでお金を使う仕組み、自分と向き合った商売の方法、人口減に向かう中での不動産経営、などそれぞれの背景に沿った意見や考え方を披露しながら、進行しました。

ワークショップ

後半は「私は(A)です。(B)を実施します。それは(C)です。」という定型文を参加者全員に投げかけ「石巻で稼ぐコツ」を考えるワークショップを実施。回答例として「私はスティーブ・ジョブズです。水産加工のファブレスメーカーを作り、一社でできない加工もシェアして作ればもっと美味しく便利になる会社を目指します」と

いったそれぞれの背景を元にしたユニークな回答が多く生まれました。その後も石巻で儲かる事例や半島部で集客に成功しているはまぐり堂の事例、石巻日日新聞の近江社長から「理念を持ったハイリスクリングリターン」の話など、具体的な事例も交えた情報交換が行われました。



参加者の声

- 継続して欲しい。
- 誰でも自由にの雰囲気に参加しやすい。
- いろいろなアイデアを具現化できたらおもしろい。
- 色々な年代、普段お会いする機会も少ない様々な方の話が聞けた。
- 異種交流会のようで、様々な視点での意見が出ていたので非常に勉強になりました。
- 次回、このような機会があればより深掘りした議論があればと感じました。
- 経済や施策についてわからないことが多かったので、たくさんのヒントがもらえて嬉しかった。



03 子育て

子育て世代が集まり専門家とともにアイデアを生み出す

実施日:2018年12月21日(金) 場所:IRORI石巻 参加者:39名

タイムテーブル:自己紹介-石巻の子どもの居場所づくりに関する提案共有-ハーフタイム-ワークショップ



登壇者

ファミリ
テーター



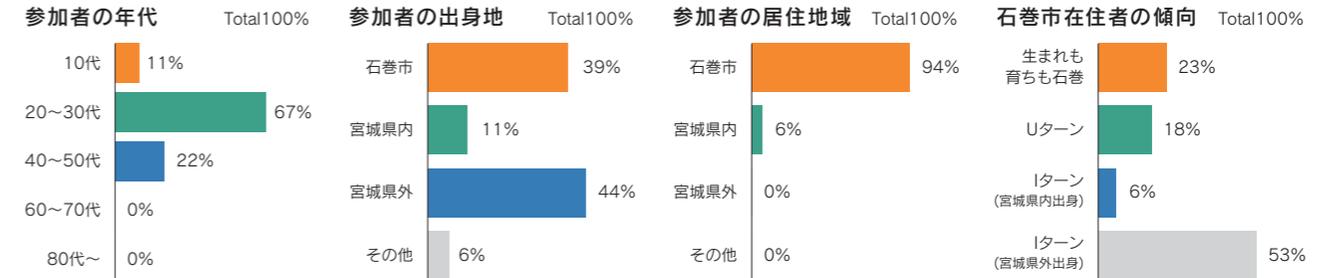
三上 和仁
合同会社
デザインナギ



田中 雅子
NPO法人
こども∞感ばにー



吉川 恭平
NPO法人
子どもにやさしいまちづくり



石巻の子どもの居場所づくりに関する提案共有

前半は子ども支援の共同団体「石巻のプレーパークと子どもの遊びを考える会」が石巻市に提言を行った「石巻の子どもの居場所づくりに関する提案」の内容を全体に共有しました。

子どもには放課後自由に遊ぶ場が必要ですが、石巻市は14万人規模の都市にも関わらず放課後に利用できる施設は1館しかなく、

現状は不足しています。そのため(1)西部(蛇田・向陽)(2)東部(湊・鹿妻・渡波)(3)中央西部(釜・大街道)の3地区に子どもの居場所が必要ではないかという提案を市に具体的に言い、実現に向けて動いています。

ワークショップ

後半は参加者に「石巻の子育てがどうなったら良いか」を議題にアイデアを出していくワークショップを行いました。

「子どもが好きなおばあちゃんを遊び場にもっと来てもらう」「馬車で遊び場をつなぎ、馬の世話を子どもがしながら地域と関わりを持つ」「コレクティブハウス」「移住者に対する子育て情報の充実」「噴水や芝生がある

整備された公園」「子どもを気軽に連れていけるファミレス以外のレストラン」「神社を活用した遊び場」「ボール遊びができる公園」「お母さんの自由な時間の確保」「大人が入れない公園」「世代を超えて交わる場」といった突飛なものから具体的な案まで様々なアイデアが生まれました。



参加者の声

- 多角的な意見が出ていて考える良い機会になりました。
- どのプランも現実になったらすごく楽しそうだしそれこそ石巻で子育てしたいって思った。
- 子育て中、子どもがいない方、それぞれの考えを聞くことができたのは貴重でよかったです。
- 自分が関わっている地域以外、かつあまり知らない分野の話が聞けてよかった。
- みんながそれぞれ思った意見を言い合っている。専門家の意見も聞けてよかった。
- 一人ひとりさまざまな意見でおもしろい、その情報が頭の中にあるだけで選択の幅が広がる。
- 自分の住んでいるところと石巻の市内は大きな差があるなあと感じた。問題点は多いとは思いました。
- いろんな意見が聞けてよかったけど、もっと掘り下げたかった。時間が足りなかった。



04 文化歴史

石巻の文化関係者がセクターを超えて熱く議論を展開

実施日:2019年01月18日(金) 場所:IRORI石巻 参加者:49名

タイムテーブル:自己紹介-ディスカッション「これまでの文化」-ハーフタイム-ディスカッション「これからの文化」



登壇者



三上 和仁
合同会社
デザインナギ



菊田 貞吾
NPO法人
石巻アーカイブ



松村 豪太
Reborn-Art Festival



毛利 壮幸
有限会社毛利屋



矢口 龍太
いしのまき演劇祭



都甲 マリ子
演出家/パフォーマー



嶋脇 佑
Yukiaisai/
Videographer



栂谷 智大
株式会社
街づくりまほう



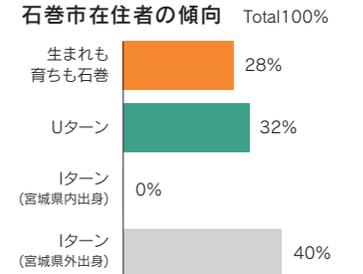
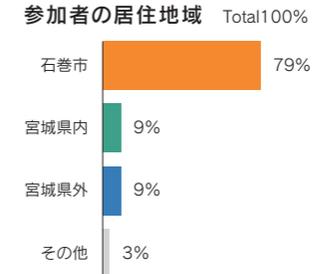
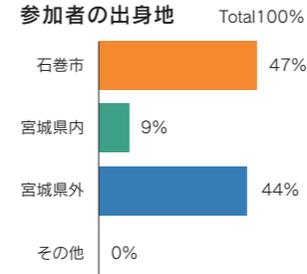
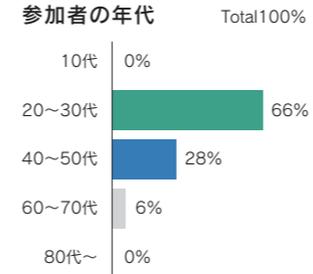
阿部 拓郎
石巻劇場芸術協会/
空想科学文化研究部



齋藤 麻理奈
図書館司書



近江 瞬
塔短歌会/
短歌部カブカブ



ディスカッション「これまでの文化」

前半は郷土史家の菊田貞吾さんを中心に石巻市の「これまでの文化」について確認を行いました。

江戸時代から伊達藩と直結していることもあり文化程度は非常に高く、明治から昭和にかけて芝居や映画の流行が石巻でも起こり、港町ということで花柳界などの娯楽から演芸も栄えていました。その後に昭和22年に初めての公民館ができ文化のさきがけとなります。近年では震災前までは不動町に

市民ホール、南浜に文化センターがありました。他にもレゲエカルチャーといった隠れた文化、長浜でのフェスやサンファンでのオペラといった過去の取り組み、アトリエコパンの新妻さんや浅井元義さんといった縁がある画家と話が続きます。そして現在は石ノ森萬画館が根付きつつあり、リボンアートという新しい潮流も生まれていく中で複合文化施設が建設中という全体の流れを確認しました。



ディスカッション「これからの文化」

後半は「これからの文化」について議論しました。

「震災後に入ってきた移住者が生み出すカルチャー」「閉鎖的で何もないから余地がある」「演劇で地域を盛り上げる」「一定数の一般の方をどう巻き込むか」「上の世代と若者世代をつなぐ必要性」「カオスにもっとドロドロに」「文化は面白いものが面白いものとし

て広まる」「継続が大事」「石巻のメインカルチャーがわからない問題」「メインになるには愛が必要だ」「カルチャー同士のせめぎあい=愛のみつどもえ」「文化施設を活かすための突き抜けたパワーの必要性」「支える人を増やしてピラミッドのてっぺんを伸ばす」といったキーワードを元に、多角的な議論が展開されました。



参加者の声

- 色々な意見や考えが聞けたのがよかった。やっぱり愛は大事ね!
- 殊に文化を育てていくのは市民意識が強く影響していると考えられるだけにこのような機会は非常に重要だと感じました。
- 愛という終着点が私は心地よかった。これから産まれてくる場(複合ホール)を愛せないというのであれば、どうしようかと不安になった。この不安感を払拭できたことは1番の収穫です。
- 登壇者の方の話がとてもわかりやすかった。震災前の石巻の文化事情など流れもよかったです。文化のすそ野を広げること、そういう層をどうやって育てていくかという話が納得しました。
- 石巻は「文化不毛の地」というイメージが強かったが、その文化についてこんなに考えている人がいると知り、たくさん意見も聞いて良かった。



05 コミュニティ

石巻のコミュニティについて若い担い手を中心に議論

実施日:2019年02月15日(金) 場所:IRORI石巻 参加者:38名
 タイムテーブル:自己紹介-事例発表-ハーフタイム-ディスカッション



登壇者



松村 豪太
ISHINOMAKI2.0/
ハグクミ



高橋 一夫
池月サポートセンター



佐藤 尚美
一般社団法人
ウィアーワン北上



西村 真由美
フリーランス/
上釜を愛する会



落合 孝行
フリーランス/
山下地区協働の
まちづくり協議会



横山 翼
一般社団法人りぶらす



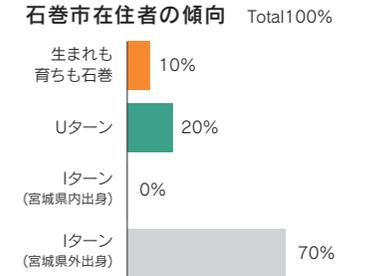
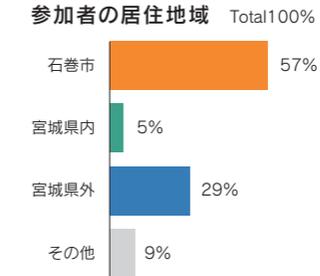
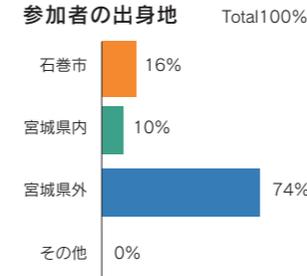
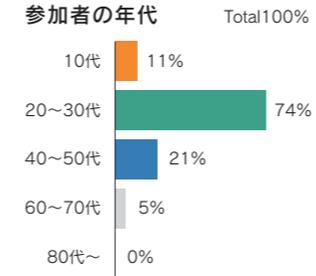
松下 嘉広
フリーランス



谷 祐輔
石巻市
社会福祉協議会



阿部 拓郎
一般社団法人
ISHINOMAKI2.0



事例紹介

前半は宮城県内でも地域づくりの先端を走ることでも有名な大崎月池地区から高橋一夫さんをお呼びし講演を行っていただきました。
 池月地区は典型的な過疎化が進む地域、人口減少で地区の小学校も廃校しています。そうした地域で拠点となるサポートセンターを立ち上げた経緯、具体的な施策の説

明や方法論に難しさや課題、更には資金面の話まで詳細に話を聞くことができました。講演後には質疑応答も行き、「地域で反対する人はいないのか?→コミュニケーションをしっかりとれる仕組みを作っている」といったやり取りが繰り返されました。



ディスカッション

後半は「攻めのコミュニティ守りのコミュニティ」をテーマにファシリテーターの松村さんが中心となり議論が進みました。「地域を動かすには他の地区と競うのも必要」「休日まで福祉はやれない」「福祉先進地域の島根は福祉をやりたいこととしてキャンペーンするのが上手い」「山下地区の悪たくみプロジェクト」「地域に対していいねと言

い続ける」「歴史をつくるコミュニティと時代を守るコミュニティ」「攻め守り」を"どっちもいい"で再定義する」「地域活動における住民の世代交代の難しさ」「地域コミュニティに関わることは心の準備が必要」「地域づくりに失敗はない」といったキーワードを元に参加者全員で今の石巻のコミュニティについて議論しました。



参加者の声

- いろいろな意見が出て否定しない。融合している。
- 雰囲気がいじめな話を和やかにしている、空間づくりが良い。
- 実際のプレイヤーの方から、とても有意義な議論を伺うことができました。
- コミュニティに関わる代表の方々が自分のため、自分が楽しくというスタンスで活動されていることに安心しました。色々な話が伺えて楽しかったです。ありがとうございました。
- 取り組みの報告が多く、具体的にこれからのコミュニティをどうしたらいいかという話までなかったので地元の人参加しづらいのかなと思った。
- コミュニティという事で、今回は高齢者向けについて大きかったような。高齢者と若者がどう関わる形があるのか、そんな話も聞きたかった。



06 クロージング

今年度の2025会議の振り返りと来年度に向けて

実施日:2019年03月02日(土) 場所:IRORI石巻 参加者:29名
 タイムテーブル:自己紹介-テーマ毎の振り返り-ハーフタイム-ワークショップ



登壇者



松村 豪太
ISHINOMAKI2.0/
ハグクミ



三上 和仁
合同会社
デザインナギ



平塚 隆一郎
山徳平塚水産
株式会社



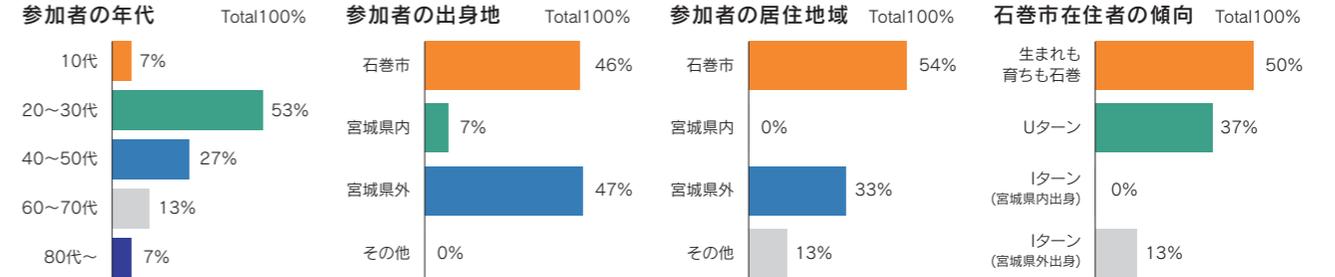
佐野 亜希
IRORI石巻
カフェスタッフ



矢口 龍太
いしのまき演劇祭



落合 孝行
フリーランス/
山下地区協働の
まちづくり協議会



テーマ毎の振り返り

前半は地域経済、子育て、文化歴史、コミュニティと今年度開催された4つのテーマの振り返りを、当日の登壇者とグラフィックレコーディングを確認しながら行いました。地域経済では平塚隆一郎さんが登壇し「長い目でみた食文化、長い目で地域経済も大事」とまとめ、子育てでは佐野亜希さんが「専門家と母親たちが話し合う場は中々ない

ので貴重だった」と振り返りました。文化歴史では矢口龍太さんが「難しい議論をまとめるには愛という言葉しか出なかった、2回目をやりたい」とまとめ、コミュニティでは落合孝行さんが「視点を変えることで周りが関わりなくなる地域ごとの仕掛け方の違いが面白い」と振り返りました。



来年度の2025会議に向けて

後半は来年の開催が決定している2025会議に求めることを参加者へ問いかけ、全員が発表を行いました。回答例として「水産のアイデアソン」「移住者ママの場」「食」「スポーツ」「若年層と高齢層のアイデア比較」「世界でいちばん面白い街のアイデア出し」「市役所VS民間」「地元の人に興味をもってもらいたい」「まちづく

り」「市民活動と行政との関係」「失敗談の共有」「テーマの継続(文化歴史)」「中継」「朝までやる」「妄想をふくらませるだけの会」「会議後続けて考えられる仕組み」「議題にあった場所で議論」「もっと若者参加」「地域の唯一無二」「石巻中央以外」「インバウンド」「空き家利用」といった案が生まれました。



参加者の声

- 若者が多く、発言がしやすい雰囲気もあった。
- 一人ひとりが対等な立場になって、別け隔てなく意見を述べられる雰囲気が出てくる。
- 今年6月に移住予定です、移住者の方が多く、皆様の本気度や愛情が伝わってきて楽しみになりました。
- すごく皆様の熱意、アイデアが伝わった。今回のまとめが最初に来た会議だったので具体的なディスカッションを改めて聞きたい。
- たくさんの方のたくさんの視点からの課題提案が聞けたことは楽しかったです。
- あー！おもしろかった！他県民でも、石巻に対して意見を言えるのが素敵！





あとがき

あの日から丸8年が経過し、石巻には今日も復興の槌音が響いています。災害公営住宅全計画戸数の整備が完了したというニュースが象徴するように、ハード整備は着々と進行していますが、土木工事や大規模建築事業の完了をもって復興が達成されるという認識をもっている方はごく少数でしょう。もちろん、コミュニティの再生や、心の復興といったキーワードもありますが、そもそも3.11以前から石巻はこの国の他の地方都市同様、人口減少に経済の停滞と、右肩下りのグラフであらわされていたのです。その下がっていくグラフの延長線上に復興の到達点を置くべきではありません。二年目の開催となった石巻2025会議は「石巻がより良いまちになるため」という極めて総論的な命題設定からスタートしました。震災後、このまちでは多くの新しい挑戦が多様な主体によってなされてきましたが、

今回の2025会議では「地域経済」「子育て」「文化・歴史」「コミュニティ」というテーマのもと、生まれた時から変わらずこのまちが好きな人、震災後生業の形を変えた人、他所から移ってきて新しい石巻の住民となった人など、様々な立場・世代の人にアイデアや意見を交換していただきました。それらはどれも「石巻がより良いまちになるため」の貴重な一歩一歩です。個人的には、もっと各人の意見がぶつかることを恐れずに会議を進行すべきでなかったかという反省があります。そういう感想を持てたのも、このまちで多くのコミュニケーションが積み重ねられていることによる成熟なのかなとも思います。建設的な衝突は新たなステージへの進化をもたらします。「石巻がより良いまちになるため」に、楽しく議論を重ねられる場として、来年も石巻2025会議を開催できることを願っております。

コンソーシアムハグクミ 代表 松村 豪太

石巻2025会議平成30年度報告書
2019年3月31日 第1刷

編集
三上 和仁(合同会社デザインナギ)

デザイン・撮影
渡邊 樹恵子(合同会社デザインナギ)

議事録
佐藤 優花 (合同会社巻組/ハグクミ)

グラフィックレコーダー
橋本 さと子

発行
コンソーシアムハグクミ
平成30年石巻市スマートな地域資源活用創造事業

連絡先(ISHINOMAKI2.0)
〒986-0822 宮城県石巻市中央二丁目10-2
TEL:0225-90-4982 FAX:0225-90-4983
<http://ishinomaki-iju.com/>
navi@ishinomaki2.com

コンソーシアムハグクミ
一般社団法人ISHINOMAKI2.0、一般社団法人イトナブ石巻、合同会社巻組、一般社団法人石巻観光協会の4社によるコンソーシアム。
移住・定住の促進、ローカルベンチャーの推進、空き家活用、地域の情報発信など、多岐に渡る事業を展開している。
国内10自治体が参加する「ローカルベンチャー推進協議会」の石巻事務局を務める。

◆取り扱いについて
本書の内容の一部あるいは全部を無断転載・複製・複写・インターネット上への掲載は、著作権法上認められている場合を除き、禁じられています。
本書のデータを引用する場合は、必ず出典を明記いただき、ハグクミまでお知らせください。